大学院コンサートシリーズ・名手と共に

「ピアノデュオ　ドゥオールを迎えて」

樋口 歌織・高城 美希（修了生）
S.ラフマニノフ
組曲 第2番 ロマンス Op.17 変イ長調

石崎 美希・山本 梨奈
S.ラフマニノフ
組曲 第2番 ロマンス Op.17 変イ長調

ドゥオール
M.レーガー
6つのワルツ Op.22 より

田口 美優・高城 美希（修了生）
A.ボロディン
ダッタン人の踊り

見原 さやか・船越 のどか
M.インファンテ
アンダルシア舞曲より
Ⅰ. Ritmo , Ⅲ. Gracia(El vito)

ドゥオール
J.S.バッハ=ラインベルガー
２台のピアノのためのゴルトベルク変奏曲より

小林 友貴枝・ZHAO LIJIA
M.モシュコフスキ
スペイン舞曲集 第1・3番

井坂 美月・森岡 姿帆（修了生）
D.ミヨー
スカラムーシュ　Op.165b

寺島 梨湖・松本 せいら
C.ドビュッシー
牧神の午後への前奏曲

加瀬 明美・加藤 幸恵
F.プーランク
2台のピアノのためのエレジー

2023年2月21日(火)
18時開演(17:45開場)
シルバーマウンテン２階

⚠ 新型コロナウィルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
・大声や対面での会話はお控えください。
・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

＝＝　ＰＲＯＧＲＡＭ　＝＝

●ドゥオール

J.S.バッハ=ラインベルガー／２台のピアノのためのゴルトベルク変奏曲より
J.S.Bach=Rheinberger // From Goldberg Variationen für 2 Klaviere WoO 3

●樋口歌織・高城美希（修了生）

S.ラフマニノフ／組曲 第２番 ロマンス Op.17 変イ長調
Sergei Rakhmaninov // Suite No.2 Op.17 Romance As-Dur

●小林友貴枝・ZHAO LIJIA

M.モシュコフスキ／スペイン舞曲集 第１・３番
Moritz Moszkowski // Spanische Tänze Op.12-1、3

●石崎美希・山本梨奈

S.ラフマニノフ／組曲 第２番 ロマンス Op.17 変イ長調
Sergei Rakhmaninov // Suite No.2 Op.17 Romance As-Dur

●井坂美月・森岡姿帆（修了生）

D.ミヨー／スカラムーシュ　Op.165b
Darius Milhaud // Scaramouche Op.165b

～　休憩　～

●ドゥオール

M.レーガー／6 つのワルツ Op.22 より
Max Reger // From 6 Walzer Op.22

●寺島梨湖・松本せいら

C.ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲
Claude Debussy // Prélude à l'Après-midi d'un Faune

●田口美優・高城美希（修了生）

A.ボロディン／ダッタン人の踊り
Alexander Borodin // Polovtsian Dances

●加瀬明美・加藤幸恵

F.プーランク／2 台のピアノのためのエレジー
Francis Poulenc // Elegie pour 2 piano

●見原さやか・船越のどか

M.インファンテ／アンダルシア舞曲より　Ⅰ. Ritmo , Ⅲ. Gracia(El vito)
Manuel Infante // Danzas andaluzas 1.Ritmo 3.Gracia

■*Program Note*

■S.ラフマニノフ／組曲 第２番 ロマンス Op.17 変イ長調

セルゲイ・ラフマニノフ(1873-1943)はロシアの作曲家である。ラフマニノフは、1897 年に《交響曲第 1 番》の初演が酷評におわってしまい次作《楽興の時作品 16》以降ほとんど作曲活動をしなくなってしまう。それから 4 年後の 1901 年に《ピアノ協奏曲第 2 番》、そして《2 台のピアノのための組曲第 2 番作品 17》という名曲 2 曲を完成させ、作曲家としての復活を果たした。

組曲第 2 番は、「序奏」「ワルツ」「ロマンス」「タランテラ」の 4 曲で構成されている。3 曲目「ロマンス」は、厚みのある和声がみるみる展開していき、圧倒的なスケールと豊かなメロディで揺れ動く、愛をうたった曲である。

■M.モシュコフスキ／スペイン舞曲集 第１・３番

モーリッツ・モシュコフスキが 1876 年に作曲した 5 曲のピアノ連弾曲。この「スペイン舞曲」により彼の名は世界的に知られるようになった。原曲の連弾のみならず、街の手回しオルガンからオーケストラに至るまで、様々な楽器にも編集され親しまれている。モティーフや音の響きに真のスペイン的な要素があるわけではないが、カスタネットを想わせる音型、センチメンタルな節や情熱的な雰囲気など、作曲者の独創的なエキゾチシズムが溢れている。親しみやすいメロディー、振幅の大きな曲想、ピアノ・デュエットの利点を充分に生かしたブリリアントな演奏効果を持ち、モシュコフスキの代表作であるばかりでなく、ピアノ連弾の名作の 1 つに数えられている。

■S.ラフマニノフ／組曲 第２番 ロマンス Op.17 変イ長調

「組曲第 2 番」は 4 曲で構成された 2 台ピアノのための作品であり、それぞれ序奏、ワルツ、ロマンス、タランテラの標題がつけられている。1900~01 年に作曲。友人でありピアノ二ストのゴリデンヴェイゼルに献呈。

ラフマニノフ(1873~1943 年)はペテルブルク音楽院を卒業後、順調に作曲を進めていたが、1897 年に初演した「交響曲第 1 番」の失敗を機に自信を喪失してしまいしばらくの間作曲をやめていた。この作品は、ラフマニノフが自信を取り戻し、作曲活動を再開した頃に作曲された。また同時期には「ピアノ協奏曲第 2 番」も並行して作曲されていた。この時期の作品は、華麗で円熟味がある。

第 3 曲目のロマンスは、甘美な愛らしさで満たされる。ラフマニノフの典型的な叙情的旋律がはじめから現れ、その旋律が変形されたり装飾され、展開されてゆく。豊かな響きのクライマックスののち、徐々に穏やかさ取り戻し静かに曲を閉じる。

■D.ミヨー／スカラムーシュ　Op.165b

フランスの作曲家であったダリウス・ミヨーは 20 世紀初頭の「フランス 6 人組」の 1 人である。ミヨーは第 1 次大戦中に秘書としてリオデジャネイロに訪れた際、ブラジル民族音楽に強い影響を受けた。モリエールの喜劇による子供の為のドラマ「空飛ぶお医者さん」のための付随音楽に基づき、2 台ピアノの為の組曲「スカラムーシュ」として 1937 年に作曲された。「スカラムーシュ」とはイタリアの即興喜劇に登場する、臆病であり空威張りをする道化役を意味する。彼の代表作の 1 つであり、ジャズの影響受けた明るく楽しい曲想は広く親しまれている。

第 1 曲　Vif　Cdur　4 分の 4 拍子

Vif は「元気に、活発に」を意味する。元気の良い主旋律が 2 人の奏者を目まぐるしく行き来する華やかな曲である。

第 2 曲　Modere　Bdur　4 分の 4 拍子

音楽用語の「モデラート」と同じ意味であり、3 曲のうちの緩徐楽章の役割を担う。穏やかで美しく、幻想的な雰囲気を持つ。

第 3 曲　Brazileira Fdur 4 分の 2 拍子
冒頭から 2 台のピアノによる激しいサンバが始まる。中間部では双方に分かれたメロディーが掛け合いのように歌われる。

■C.ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲

《牧神の午後への前奏曲》は、フランス象徴派を代表する詩人ステファヌ・マラルメの同名の詩を基にドビュッシーが作曲した管弦楽曲である。ドビュッシーの中期の傑作の管弦楽版と並行して 2 台ピアノ版も書いており、いずれも 1895 年に出版されている。この曲は、半獣神の牧神（パン）が、真夏の昼下がり、夢と現実の狭間で笛を吹き、水浴びしていたニンフ（妖精）たちと遊ぶ。彼女らを追い、腕の中に抱え、牧神は様々な夢と欲望を巡らせているうち、ニンフは消え、牧神は再びまどろみ始める、という内容である。ドビュッシーはかなり自由に、しかし詩の持つ雰囲気を残して、マラルメの世界を音楽にしている。曖昧で美しい旋律に、途切れるリズム、不協和と協和を行き来するハーモニーが実に物憂げで印象的である。牧神の象徴である「パンの笛」をイメージさせる音から始まり、牧歌的で幻想的な音楽が広がっていく。

■A.ボロディン／ダッタン人の踊り

《ダッタン人の踊り》はボロディン(1833-1837)が作曲した、ロシアの古の武将を描いた叙事詩《イーゴリ軍記》を元にして作られたオペラ《イーゴリ公》の第 2 幕に含まれる曲である。
この歌劇は 1869 年に着手されたが、ボロディンの急逝により完成はされなかったという。その意思を継いでリムスキー＝コルサコフ(1844−1908)がオーケストレーションを行い完成させた。
オペラ《イーゴリ公》とはロシアとダッタン人との攻防をめぐり合う中での人間模様を描いており、《ダッタン人の踊り》は異民族同士が手を取り合い、ダンスするシーンを描いているのが特徴的である。
情感豊かで美しいメロディーで始まる。この異国情緒溢れるメロディーはロシアを代表する曲でもあり、今でも多くの人に愛されている。やがて軽快で激しい舞踏となり、最後は華やかに終わる。

■F.プーランク／2 台のピアノのためのエレジー

1959 年 9 月に作曲されたプーランク晩年の作品である。フランスの音楽家たちの大パトロンとして名をはせた旧家ポリニャック家の一員で、プーランクの親友でもあったマリー＝ブランシュ・ドゥ・ポリニャック伯爵夫人(1897-1958)の死を悼んで作曲された。副題に「入れ替わる和音の」とあるように、静謐で叙情的なこの曲は奥行きのある和音で彩られた息の長い旋律を 2 台のピアノが交互に演奏しながら進行する。楽譜の扉には作曲者による「このエレジーは、葉巻をくわえ、コニャックのグラスをピアノの上に置いて、あたかも即興のように演奏されるべきである」という言葉が記されている。

■M.インファンテ／アンダルシア舞曲より　Ⅰ. Ritmo , Ⅲ. Gracia(El vito)

マヌエル・インファンテ（Manuel Infante, 1883〜1958）は、長年フランスに暮らしたスペイン人の作曲家。スペインのオスーナに生まれる。ピアノと作曲をエンリケ・モレラに学び、1909 年にパリに定住する。パリではスペイン音楽の演奏会をたびたび行なった。作風はスペイン国民楽派の特徴が如実であり、《アンダルシア舞曲》や《2 台ピアノのための組曲》などの作品を残した。本日は《アンダルシア舞曲》を抜粋して演奏する。
1.Ritmo リズミックに
フラメンコでお馴染みのファンダンゴのリズムをベースに音楽は転調し発展していく。
3.Gracia 優雅に
アンダルシア民謡の「エル・ビト」を使って書かれている。シンプルで哀愁を帯びた恋歌はその後、華麗な装飾を身にまといながら発展し頂点を迎える。軽快なリズムの後半は、次第に高揚していく。

■*Profile*

樋口 歌織

東京都出身。国立音楽大学卒業。4 歳よりピアノを学んでおり、現在、洗足学園音楽大学大学院 2 年器楽専攻ピアノコース在籍。第 39 回ピティナピアノコンペティション連弾上級部門全国大会入賞。大学 4 年次には、ピアノ専攻 4 年生による演奏会に選抜で出演。これまでにピアノを佐々木朋枝、米持隆之、白水芳枝、泉ひろ子、泉ゆりのの各氏に師事。

高城 美希（修了生）

福岡県出身。洗足学園音楽大学ピアノコース卒業。同大学院を首席で修了。2017 年音の夢ピアノコンクール第 1 位、室内楽賞を受賞し、九州室内合奏団と共演。第 36 回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール全国大会入賞。ラ・フォル・ジュルネ TOKYO2018 にて丸の内エリアコンサートに出演。2019 年度ピアノコース特別選抜演奏者に認定。2021 年、大学院コンチェルトの夕べにて、L.v.ベートーヴェンのピアノ協奏曲第２番のソリストとして現田茂夫氏と共演。ピアノを江崎昌子氏に師事。

小林 友貴枝

神奈川県出身。３歳から８歳までピアノ、18 歳からエレクトーンを習う。共立女子短期大学卒業後、一般企業に就職。エレクトーングレード、指導グレード、ピアノグレード取得しヤマハ音楽教室システム講師として勤務。４０歳をすぎてからピアノを再開。その後、産業能率大学３年に編入、卒業後、洗足学園音楽大学大学院に入学する。第２４回万里の長城杯国際音楽コンクール入賞、ガラコンサートに出演する。現在ピアノを村松恵子氏に師事。

ZHAO LIJIA（チョウ　リカ）

6 歳からピアノを習い始め、西安音楽学院の副教授の史小亜に師事。2011 年に西安音楽学院附属中学に入学し、西安音楽学院ピアノ系副主任の呉暁韜に師事。その後、2014 年に University of Chichester に入学し、Chizumi Watanabe-Hollingworth に師事。2021 年に洗足学園音楽大学に大学院生として入学し、村松恵子氏に師事。

石崎 美希

栃木県出身。宇都宮短期大学附属高等学校音楽科、洗足学園音楽大学音楽学部ピアノコース卒業。現在同大学院 1 年に在籍。2021 年度洗足学園特別選抜演奏者認定。これまでにピアノを小久保素子氏、ソルフェージュを高鳥舞氏に師事。
現在ピアノを江崎昌子氏に師事。

山本 梨奈

東京都出身。5 歳からピアノを始める。
洗足学園音楽大学音楽学部ピアノコース(アンサンブル・スタディ・クラス)を卒業後、同大学院 1 年に在籍。
現在、鳥羽瀬宗一郎氏に師事。

井坂 美月

5 歳よりピアノを始め、9 歳からヤマハ音楽教室にて学ぶ。洗足学園音楽大学卒業。ピティナ・ピアノ・コンペティション Pre 特級一次予選優秀賞。東京ピアノコンクール一般 A 部門第 2 位。第 29 回日本クラシック音楽コンクール大学女子の部第 4 位（1～3 位なし）。 2017～2021 年度前田音楽奨励賞受賞。2018～2020 年度特別選抜演奏者認定。2020,2022 年度前田記念奨学金生。ルイス・フェルナンド・ペレス、グヤーシュ・マルタなどの特別レッスン受講。これまでに、ピアノを土井陽子、佐藤薫子の各氏に、現在、ピアノを新海未穂、佐々木恵子の各氏に、ソルフェージュを佐々木邦雄氏に師事。

森岡 姿帆（修了生）

幼少よりヤマハ音楽教室ジュニア専門コース、桐朋学園大学音楽学部附属子供のための音楽教室にてピアノとソルフェージュを学ぶ。
東京都立総合芸術高等学校音楽科を経て、洗足学園音楽大学を全コース最優秀賞(首席)で卒業。同大学院を最優秀賞(首席)で修了。各コースの首席奏者によるグランプリ特別演奏会においてグランプリを受賞し、奨学金を授与される。
在学中、ジュリアード音楽院研修(アメリカ)に参加、ミュンヘン国際音楽セミナー(ドイツ)を修了。
これまでにソリストとしてオーケストラと協奏曲を共演、ソロや室内楽のコンサートに出演、レコーディング等の演奏活動の他、後進の指導にあたるなど、幅広く活躍中。

寺島 梨湖

熊本県出身。3 歳よりピアノを始める。第 8 回ヨーロッパ国際ピアノコンクール全国大会高校生の部、金賞及び審査員特別賞受賞。第 10 回日本バッハコンクール全国大会金賞。第 19 回九州音楽コンクール銀賞。大学在学中、2019～
2021 年度ピアノコース特別選抜演奏者に認定。ジェローム・グランジョン、ルイス・フェルナンド・ペレス、グヤーシュ・マルタなどの各氏の特別レッスンを受講。これまでにピアノを谷口昌子、塩津貴子の各氏に、現在ピアノを鳥羽瀬宗一郎、浦壁信二の各氏に師事。

松本 せいら

北海道出身。5 歳よりピアノを始める。第 10 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会入選。第 20 回、21 回大阪国際音楽コンクールピアノ部門 Age-U ファイナル入選。第 22 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 全国大会入選。2021 年度ソナタコンクールマスタークラス受講。大学在学中、2019～2021 年度ピアノコース特別選抜演奏者認定。これまでにピアノを太田代路子氏、室内楽を安永徹、市野あゆみ氏の各氏に師事。現在ピアノを吉武雅子氏に師事。

田口 美優

広島県出身。洗足学園音楽大学ピアノ科、卒業。第一回洗足学園学内コンクール第三位。第 77 回福山音楽コンクール本選ファーストクラス受賞。第 28 回日本クラシック音楽コンクール全国大会入選。2018 年、2019 年度特別選抜演奏者認定。これまでにピアノを浅尾晶子、宮久恵、三谷智子の各師に師事。現在ピアノを江崎昌子氏に師事。

加藤 幸恵

横浜市出身。5 歳よりピアノを始める。洗足学園音楽大学ピアノコース卒業。
2021 年度特別演奏者認定に選出され特別演奏会に出演。学内アンサンブルコンペティション 2 台 4 手部門にて最優秀賞を受賞。これまでにピアノを根廻真奈美、八島とも子、門倉美香の各氏に師事。室内楽を安藤裕子、大浦綾子の各氏に師事。

加瀬 明美

群馬県出身。昭和大学薬学部卒業。同大学卒業後、病院、調剤薬局等に薬剤師として勤務。退職後は学習塾を設立し、英語を中心に延べ 200 名以上の大学受験生や企業の上級管理職への指導を行う。幼少期に習い始め中学生時代に中断していたピアノを、還暦を迎え大手楽器店の音楽教室にて再開。62 歳でクラシック音楽のさらなる学修・研究に取り組むために、洗足学園音楽大学大学院器楽専攻ピアノコースに入学。これまでにピアノを福永美梨、小黒秀星、金平泰介、門倉美香の各氏に師事。

見原 さやか

東京都出身、8 歳からピアノを始める。
都立総合芸術高等学校を卒業後、洗足学園音楽大学音楽学部に入学。
アンサンブル・スタディクラスに 3 年次より在籍し卒業。
ピアノを飯野明日香、山岸真由美、室内楽を新居由佳梨に師事。
2021 年に洗足大学院・藝大大学院交流コンサートに出演。
2022 年、10 月 9 日に開催された大学院コンチェルトの夕べに出演。
室内楽等の演奏活動、後進の指導にも力を入れている。
現在、洗足学園音楽大学院 2 年ピアノコース在籍。

船越 のどか

愛媛県出身。都立総合芸術高等学校音楽科を経て、洗足学園音楽大学卒業。
大阪国際音楽コンクールにてアヴニール賞受賞、及び連弾部門にて第 2 位。日本香港国際音楽コンクール・プロフェッショナル部門にて第 3 位。
これまでに、ピアノを其田富子・井上祐子・川辺千香子・碓井俊樹の各氏に、ソルフェージュを 上田真樹氏に師事。
現在は洗足学園音楽大学大学院にて梶木良子氏に師事している。

～ドゥオール～　2人が解き放つ 光のハーモニー

これまでの850近い演奏活動と並行し、雑誌AERA、NHK Eテレ「天才てれびくんYOU」出演、音友 web「ONTOMO」連載、彩の国さいたま芸劇、フェニーチェ堺でのワークショップ、YouTube「おうちドゥオール」などコロナ禍もピアノデュオをより身近なものへと前進させるドゥオール。

藤井隆史：東京藝術大学大学院修了。文化庁、DAAD 奨学生としてドイツ・マンハイム音楽大学大学院に学び、国家演奏家課程及びピアノデュオ科最優秀修了。
現在、武蔵野音楽大学講師及び洗足学園音楽大学大学院招聘講師。
白水芳枝：東京藝術大学卒業。野村文化財団、DAAD 奨学生としてドイツ・マンハイム音楽大学大学院に学び、国家演奏家課程(ソロ)及びピアノデュオ科最優秀修了。
現在、国立音楽大学講師及び洗足学園音楽大学大学院招聘講師。

'04年デュオ結成後、国際的な賞を数多く受賞。以後の活動は聴衆や音楽誌から高い評価を受けている(リリースした多くのCDがレコード芸術誌特選盤選出、'18レコードアカデミー賞ノミネート)。近年ドイツツアー、シンガポールでのマスタークラス&リサイタル、アメリカ・マイアミPiano Slam13アーティストとしてプロジェクト参加など海外での活動も展開中。
’21年には8枚目CD「Duo Energy」をリリースし、東京、名古屋、大阪、岡山での記念リサイタルを大好評のうちに終えた。

www.yoshie-takashi.com